

Optim Data Masking Solution



IBM InfoSphere Optim Data Masking Solution バージョン 2.2.0

クイック・スタート・ガイド

本書は、Optim Data Masking Solution の標準的な構成のセットアップについて説明します。



各国語版: 他言語のクイック・スタート・ガイドは、クイック・スタート CD の PDF ファイルにあります。

概説

IBM® InfoSphere™ Optim™ Data Masking Solution は、データ・ソース内で使用される個人情報に対してインテリジェントなマスキング機能を提供します。Optim Data Masking Solution を使用すると、テスト・システムまたは開発システムにおいてプライバシーに関する実動データの使用を避けるべき状況の場合に、架空でありながら同時に実際的なテスト・データを作成できます。

Optim Data Masking Solution は、Optim Designer、Optim Manager、Optim Management Server、Optim Proxy、および Optim Executor の各種コンポーネントで構成されます。

1 ステップ 1: ソフトウェアおよび文書へのアクセス



Passport Advantage® から製品をダウンロードする場合は <http://www.ibm.com/support/docview.wss?context=SSGMCR&dc=D400&uid=swg24029380> に用意されているダウンロード文書の手順を実行してください。

この製品には、次のものが含まれています。

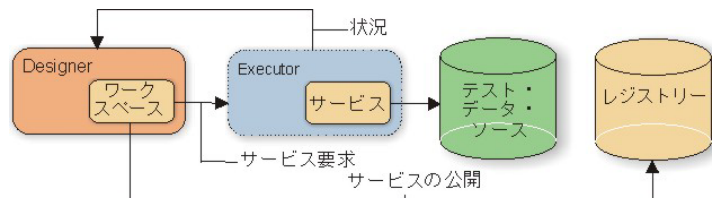
- クイック・スタート CD
- Optim Data Masking Solution のインストール・ファイルおよびドキュメントのディスク 2 枚 (Microsoft Windows 用 1 枚と Red Hat Enterprise Linux、IBM AIX®, および Solaris 用 1 枚)。各ディスクには、Optim のコンポーネントと前提ソフトウェア (IBM InfoSphere Data Architect など) が含まれています。

2 ステップ 2: ハードウェアおよびシステム構成の要件

システム要件の詳細は以下の文書を参照してください。 <http://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27020911>

3 ステップ 3: Optim Designer のアーキテクチャの確認

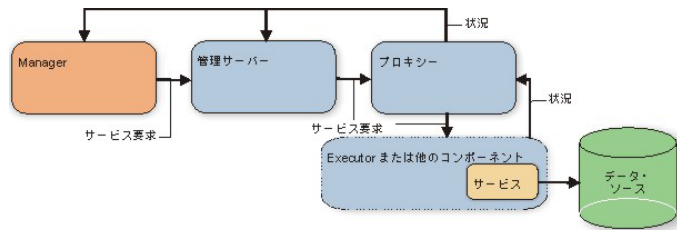
Optim Designer は、データ管理サービスを設計するために使用できる Optim Data Masking Solution のコンポーネントです。Designer を使用して Optim および Optim for z/OS® (別売) でプロセスを起動することもできます。Designer を使用するには、InfoSphere Data Architect (インストール・ディスクに含まれている) が必要です。InfoSphere Data Architect は、Designer インストール前または同時にインストールします。



この図では、データ管理サービスの設計、テスト、公開のプロセスをまとめています。まず、Designer を使用してデータ管理サービスを設計します。サービスの設計中は、サービスとその関連成果物が Designer のワークスペースに格納されます。テスト・データ・ソースでサービスをテストするには、Designer のコンピューターからアクセスできる Executor のインスタンスをまずインストールする必要があります。Executor をインストールし、Executor を使用できるように Designer を構成したら、テスト・データ・ソースに対してサービスを実行できるようになります。サービスを実動環境で実行する準備が整ったら、Designer を使用してそのサービスを公開します。公開したサービスとその関連成果物はレジストリーに格納されます。

4 ステップ 4: Optim ランタイム環境のアーキテクチャの確認

Optim ランタイム環境を使用して、実動データ管理サービスを実行します。Optim ランタイム環境には、Manager、Management Server、Proxy、および Executor の各コンポーネントが含まれています。



この図では、データ管理サービスを実行するプロセスをまとめています。Manager を使用してサービス要求を Management Server に送信します。管理サーバーはそのサービス要求をプロキシーに転送し、プロキシーは Executor のインスタンスを開始します。Executor はサービスを実行し、サービスはサービス計画に含まれているタスクを実行します。Executor がサービスを実行している間、プロキシーは Executor をモニターし、サービス状況を Manager および Management Server に返します。サービスが完了すると、Executor はサービス状況をプロキシーに返し、Executor 自体は閉じます。Proxy はサービス状況を Manager と Management Server に返します。

5 ステップ 5: Optim Data Masking Solution のインストールと構成



Optim Data Masking Solution の各種コンポーネントは、必要に応じてインストールできるようになっています。例えば、データ管理サービスの設計作業を始めるときに Designer をインストールし、後でサービスをテストする準備が整った時点で Executor をインストールし、実動環境でサービスを公開して実行する準備ができたときに Optim ランタイム環境の各種コンポーネントをインストールして構成します。

Optim Data Masking Solution の各種コンポーネントのインストール方法と構成方法の詳細については、インストールと構成の資料を参照してください。

6 ステップ 6: Optim Designer を使用したサービスの設計



データ管理サービスを設計するには、変更するデータの構造を示したモデルをまず作成する必要があります。その後、そのモデルに対応したデータ・アクセス計画を作成します。そのようなデータ・アクセス計画には、どのデータをコピー/変更するのか、そのデータをどのようにして変更するのかを示したポリシーを組み込みます。さらに、ソース・モデル、ターゲット・モデル、その両者の対応関係を指定したサービスを作成します。そのようなサービスは、ソース・モデルのデータ・アクセス計画に含まれているポリシーに基づいて、データをコピー/変更する方法を判別します。ポリシーをサービスに直接追加することも可能です。その後、テスト・データ・ソースでサービスをテストします。サービスの準備が整ったら、サービスとその関連成果物をレジストリーに公開します。

Designer とその関連コンポーネントを使用してサービスを設計する方法の詳細については、Optim Designer のユーザー資料を参照してください。

7 ステップ 7: Optim Manager を使用したサービスの実行



サービスをレジストリーに公開したら、Manager を使用してサービスを実行できます。

Manager を使用してサービスを実行する方法の詳細については、Optim Manager のユーザー資料を参照してください。

詳細情報



詳しくは、次のリソースを参照してください。

- Optim Web サイト: <http://www.ibm.com/software/data/data-management/optim/>
- Optim サポート Web サイト: <http://www.ibm.com/software/data/data-management/optim/support/>

